

立田山憩の森・お祭り広場公衆トイレ



立田山憩の森・お祭り広場公衆トイレは、熊本市の中心地から東北に位置し、多くの県民の健康づくりやふれあいの場として活用されている標高152mの立田山に完成した。

公衆トイレは、森・芝生広場・散策路・駐車場等、自然と人の活動の接点となる場に位置しており、どの方向からも立ち寄りやすい円環状の庇空間を基本に、庇下にトイレブース、休憩スペース、洗面スペース等を配置し、立田山での自然体験をサポートする場を生み出したいと考えた。

また、1本1本異なる表情を持つ原木から樹皮を剥いだだけの丸太を組み合わせたレシプロカル構造の架構がこの建築と自然との関係を深めている。外壁には、製材の残材として発生する

背板を使用した焼杉材を用いた。通常、チップ等の安価な用途に向けられることが多い背板を、丸太の表面を活かした新たな材料として用いることで、その価値の見直しを図った。

設計者 Comment

立田山を訪れる方々の活動を温かくサポートするトイレを目指し、休憩スペースを併設した、周囲の自然に溶けこむ建物を設計しました。建物は、径が細い熊本県産の丸太をそのまま構造材に使っています。通常は建物に使われない細い丸太を使うことで、森林資源の有効活用と環境負荷の低減を図りました。

柱の一部(変わった形の柱)や、中庭の黒い焼杉は、九州地方に在住の大学生方とのワークショップで一緒に作り、人の手の温もりが感じられる温かい雰囲気になりました。

このトイレを訪れる方々に、木でできた空間の気持ちよさや魅力を感じていただくと幸いです。



WS
2021.10.9
sat

立田山憩の森・お祭り広場公衆トイレ
焼杉ワークショップ
開催場所 | 熊本県林業研究・研修センター



炭化させた杉板を公衆トイレの外装材に！
伝統的な方法で「焼杉」を手作りする。

2020年から継続している立田山の公衆トイレプロジェクト。過去のワークショップで、柱の一部として使う木材を立田山の広葉樹から剪定・伐採しており、現在は建方がある程度進んでいる状態だ。今回は外装材として利用する杉板材を焼き、表面を炭化させる「焼杉」のワークショップを開催。熊本県立大学と鹿児島大学の学生、株式会社ウッドファームの社員が参加した。設計者からプロジェクトの概要説明と、焼杉のレクチャーが行われ、梁組中の現場で焼杉が使われる箇所も見学。その後、3名1組、6チームに分かれ、伝統的な方法「三角焼き」で焼杉を実施した。各チームとも初回こそ着火や焼き具合の調節に苦戦していたものの、回数を重ねるごとにコツをつかみ、2時間半ほどで長さ3mの背板材110本を炭化させた。完成した焼杉は立田山の公衆トイレへ運ばれ、施工される。



設計者 Comment



【意匠】株式会社山下設計 坂本 達典氏

焼杉は、私自身もずっと経験したかった伝統的な方法の一つなので、参加者の皆さんと一緒に楽しく取り組みました。機械化が進む現代であえて手作業で外装材を作ることは「新しい体験」ではないでしょうか。焼杉の外壁は、自然豊かな公園と建物をゆるやかに大きく大切な役割を果たしてくれるはずです。



【構造】株式会社山下設計 曾根 拓也氏

外壁には、雨水に耐えうる材質が求められます。一般的に木材を使う場合は薬剤を加圧注入して腐食対策を施しますが、今回はあえて手間のかかる焼杉を選びました。焼杉は海外からも注目されている古くて新しい技術です。安価な杉材でも炭化させることで耐久性が増し、50年ほど持つと言われてます。

参加者 Comment

熊本県立大学1年 近藤 美月さん



建物を設計された方や建築に携わる方と一緒に焼杉を作ることができ、とても貴重な体験でした。私の夢は設計士になること。勉強へのモチベーションもアップしました！

鹿児島大学3年 碓野 匠さん



焼杉の体験だけでなく梁組中の現場や試験倉庫も見学でき、大学の講義で学んできたことが線でつながりました。木の魅力と可能性を改めて知るいい機会になりました。

熊本県立大学2年 林田 望希さん



教科書で学んだ焼杉を実際に体験できて嬉しかったし、火が木に与える変化に驚きました。手作りした材料が立田山の公衆トイレに使われると思うと完成が待ち遠しいです。